



埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっち」



埼玉県マスコット
「コバトン」

大里地域の農業



令和8年度版



大里農林振興センター

Saitama Prefectural Osato Agriculture and Forestry Promotion Center

1 地域の概要

位置と地勢

大里地域は、埼玉県北部、都心から 50～80km の距離に位置する、2 市 1 町（熊谷市、深谷市、寄居町）からなる地域です。

県全体の約 10% の面積を占め、耕地面積は約 17% と県下最大の農業地帯です。

地域の中央南部を荒川が、北側を利根川が西から東へ流れ、西部は洪積台地の畑地帯、南部は台地上の洪積土壌と荒川沿いの沖積地、北東部一帯は平坦で肥沃な沖積土壌の水田と畑地帯が広がっています。



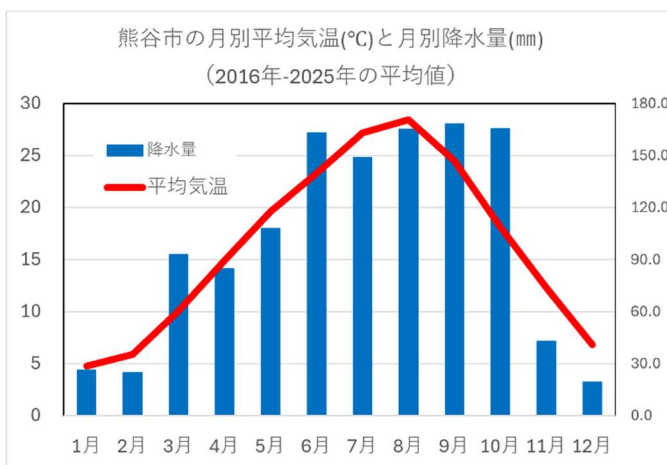
大里地域の位置

気 候

夏季の気温は極めて高く、冬季は北西の季節風である「関東のからっ風」が強く吹く晴天日が多い内陸性の気候です。

- ・年間平均気温 16.3℃
- ・年間降水量 1,209.7mm

（出典：気象庁データ 観測地点は熊谷
2016 年～2025 年の過去 10 年値）



交 通

地域の中央部を南東から北西方向にJR高崎線と上越新幹線が、東西方向には秩父鉄道が走り、西部の山沿い地帯にはJR八高線が走っています。

近年では、秩父鉄道に「ソシオ流通センター駅（熊谷市戸出町）」（平成29年4月）、「ふかや花園駅（深谷市黒田）」（平成30年10月）、東武東上線に「みなみ寄居駅（寄居町富田）」（令和2年10月）が開業し、さらに利便性が高まりました。

地域の中央部をJR高崎線と平行して国道17号線、秩父鉄道と平行して国道140号線が走り、南北方向には国道407号線が走っています。さらに、地域の西部には関越自動車道が走り、花園IC、寄居スマートICがあります。

国道のバイパス整備や県道の拡張も進められており、交通網が充実しています。

2 農業の概要

大里地域は、埼玉県農業の中心的地域として、重要な役割を担っています。

農業産出額は420億円（令和5年推計値）と、県全体の約4分の1を占め、米麦・野菜・花植木・畜産など、各分野で盛んな農業が行われています。また、農産物直売所や観光農園も各地に展開され、地域住民や観光客に親しまれています。

市町別に見た大里地域の農業の概要は次のとおりです。

熊谷市

中央部：水稻・小麦の二毛作を中心とした農業が盛んです。

北 部：ねぎ、にんじん、やまといも、きゅうり、かぶなどの主産地が形成されているほか、酪農をはじめとする畜産も盛んです。

南 部：水稻・小麦・大豆に加え、野菜を組み合わせた複合経営が多く、ブロッコリーなどの露地野菜、ブルーベリー、くりなどの栽培も盛んです。

深谷市

北 部：ねぎ、ブロッコリー、きゅうり、トマトなどの主産地が形成されています。

南西部：ブロッコリー、スイートコーン、ねぎなどの主産地が形成されているほか、植木類の生産や酪農、肉用牛などの畜産も盛んです。また、ゆりやチューリップの切り花生産、シャコバサボテン、カランコエなどの多肉植物をはじめとする鉢物生産は全国屈指の生産量を誇ります。

南東部：水稻・小麦の二毛作と野菜を組み合わせた複合経営が行われており、ケイトウ、コギクなどの切り花生産のほか、酪農などの畜産も盛んです。

寄居町

東 部：平坦地では、主穀と野菜を組み合わせた複合経営が盛んです。

北 部：用土地区は花植木の主要な産地です。

西 部：中山間地域では、みかんやうめ、くりなどの観光農業が多く、丘陵地域では酪農が盛んです。



3 農業の構造

農地

大里地域には、12,630ha（令和7年）の農地があり、県全体の約17%を占めています。

このうち、田が5,527ha、畑が7,100haで、農地に占める畑の割合が56%となっており、県全体の田畑比率（田56%、畑44%）と比べて、畑の比率が高くなっています。

野菜の輪作や米麦の二毛作など、多様な栽培が行われており、農地が有効に活用されています。

農業経営体

農業経営体数は4,190経営体（令和2年）あり、県全体の約15%を占めています。

農業経営体数は過去5年間（平成27年：5,495経営体）で約24%減少していますが、農業産出額は約11%減（平成27年度：約482億円、令和2年：約428億円）に留まっています。

大里地域農業の主要指標

		熊谷市	深谷市	寄居町	大里地域	県全体
1	総面積 (ha)	15,982	13,837	6,425	36,244	379,775
2	総耕地面積 (ha)	5,620	5,780	1,230	12,630	72,500
	田 (ha)	3,720	1,600	207	5,527	40,600
	畑 (ha)	1,900	4,180	1,020	7,100	32,000
3	農業経営体数 (経営体)	1,663	2,194	333	4,190	28,376
	個人経営体	1,614	2,123	319	4,056	27,796
	団体経営体	49	71	14	134	580
4	農業法人数 (法人)	91	168	20	279	1,441
5	認定農業者数 (人)	305	426	52	*824	4,924
6	集落営農数 (組織)	28	5	2	35	74
7	農業産出額 (千万円)	707	3,072	420	4,199	16,355
	米	179	80	11	270	3,048
	麦類	51	12	1	64	171
	野菜	380	1,791	119	2,290	7,682
	果実	19	5	4	28	490
	花き		174	22	196	428
	畜産	60	976	254	1,290	2,803

【1】国土地理院「令和8年全国都道府県市町村別面積調（令和8年1月1日現在）」

【2】作物統計調査/市町村別データ（令和7年）

【3】2020年農林業センサス

【4、5】大里農林振興センター調べ（令和7年3月末） *広域認定含む

【6】集落営農実態調査（令和7年度）

【7】市町村別農業産出額（令和5年推計）

※有効桁数処理のため、計と内訳が合わない場合がある。

4 農業生産の現状

水 稲

水稻作付面積は3,189ha で、県全体の10%を占め、15,297t の米が生産されています。(令和7年産)

作付品種は「彩のかがやき」「キヌヒカリ」「彩のきずな」が約75%を占めています。

カントリーエレベーターやライスセンター等共同乾燥調製施設が整備され、また、スマート農業に対応した技術として、直進アシスト田植機や農業用ドローンなどの導入も進んでいます。



埼玉県のお米「彩のきずな」

麦



小麦「さとのそら」

麦類の作付面積は小麦 2,312ha、二条大麦 178ha、六条大麦 102ha で、県全体の40%を占めています。生産量は10,565t で県全体の43%を占めています。(令和7年度産)

大里地域の麦類は、地域の水田営農の基幹作物となっています。

大規模主穀作農家や、集落営農組織による高品質で効率的な生産が行われています。

野 菜

多くの野菜品目において、管内は作付面積の上位を占めています。

ねぎは深谷市の作付面積が全国第2位(454ha)、熊谷市が全国第7位(160ha)となっています。ブロッコリーは深谷市の作付面積が全国第1位(615ha)、きゅうりは深谷市が全国第5位(84ha)となり、全国有数の産地を形成しています。(2020年農林業センサス)



管内の野菜の産出額は、229億円と県全体872億円の約26%を占めています。(令和5年)

露地野菜では、高品質で省力的な栽培を目指し、定植・収穫作業の機械化が進められ、担い手の規模拡大が図られています。施設野菜では、収益向上や品質安定を目指しCO₂施用や環境制御技術など新たな技術の導入が進んでいます。

近年では、農業法人による業務用野菜の栽培・加工の取組が増加しています。

畜産

大里地域の畜種別飼養頭羽数は、乳用牛が 3,000 頭で県全体の 48%、肉用牛が 9,889 頭で県全体の 49%、養豚が 37,767 頭で県全体の 49%、採卵鶏が 206 万羽で県全体の 46%となっています。

(熊谷家畜保健衛生所 (R8. 4. 1 現在調べ)

耕畜連携によるWC S用稲・飼料用米を中心に自給飼料の増産が進められています。

また、「深谷牛」や「武州和牛」、「彩の国黒豚」や「武州豚」、「彩たまご」などの地域ブランド品の開発と6次産業化の取組が進んでいます。



花き



花き・花木の作付面積は、345haとなっており、県全体の作付面積の約17%を占めています。(2020年農林業センサス)

大里地域は古くから花きの産地であり、深谷市を中心に「ゆり」や「チューリップ」などの球根切花を始め、鉢物・苗物、植木花木類、盆栽類などの生産も盛んです。

近年は、消費拡大の一環で、農業後継者による花育活動も盛んに行われています。

果樹

果樹の作付面積は 27ha で、県全体の作付面積の 2.6%となっています。

(2020 年農林業センサス)

市場出荷している「くり」「うめ」の他、「みかん」「ブルーベリー」「ぶどう」なども観光農園を中心に栽培され、もぎ取りなどの直売が定着しています。

また、加工による消費拡大に向けた取組も進んでいます。



5 地域農業の担い手

担い手農家

認定農業者は、800 経営体で、営農類型別では野菜が最も多く、次いで主穀、畜産、花き・植木となっています。

雇用を増やし、規模拡大を目指す個人農業者の法人が増加しており、農業者が販売のために設立した法人や企業参入を含めると 290 の農業法人が設立されています。また、家族経営協定は 408 戸で締結されています。（令和 8 年 3 月末）



青年農業者・女性農業者

青年農業者の組織は、4Hクラブ（3 団体）、農業青年会議所（4 団体）があり、研修会の開催や地域のイベントへ参加するなどの活動を行っています。特に 4Hクラブは構成員による共同プロジェクトで、地域農業の課題解決や活性化、経営発展に向けた事例研究を行うなど活発に活動しています。

農業就業人口の 39.4%※を占める女性は、農業経営における重要な担い手です。農産物の販売促進、農産物を活用した商品開発、経理や働きやすい職場づくりなど、農業の活性化に大きく貢献しています。（※「2020 年農林業センサス」農業就業人口 大里地域計 6,805 人うち女性 2,679 人）



新規就農者の状況

管内の新規就農者は、年々増加し令和 7 年度で 49 人（新規学卒 1 人、Uターン 12 人、新規参入 36 人）となっており、埼玉県内でも新規就農者の多い地域となっています。



6 環境に優しい農業の推進

特別栽培農産物

「特別栽培農産物」は、環境への負荷を低減するため、化学肥料・化学農薬の使用量を慣行の 50%以下に低減して生産される農産物を県が認証する制度です。特別栽培農産物には、埼玉県特別栽培農産物認証マークを表示して出荷することができます。

認証面積は延べ 61.0ha となっています。(令和 8 年 3 月末)



みどり認定

「みどり認定」は、土づくりと化学肥料・化学農薬使用低減、温室効果ガスの排出量削減、バイオ炭の施用、生分解性プラスチック使用による化石由来プラスチックの使用量削減、養液栽培における化学肥料・化学農薬の使用低減など、生産者が立てた環境負荷低減につながる 5 年間の農業計画を知事が認定する制度です。

認定者数は 35 人です。(令和 8 年 3 月末)

7 6次産業化の推進

6次産業(生産 1次×加工 2次×販売 3次)

6 次産業化とは、農業者が農産物の生産に加え、加工や流通・販売に主体的に取り組むことです。大里地域では 71 経営体に取り組んでいます。(令和 8 年 3 月末)



ハラペーニョソース



ねぎドレッシング



江南の Pickles



とうもろこし
ダグワース



ポップコーン
(バイクドチョコレート)



はちみつレモンベース

8 農産物・労働者の安全確保

S-GAP農場評価制度

埼玉県では、農産物の安全性、労働安全、環境保全など、農業経営の質を高めるため、平成26年度に「農業生産工程管理（GAP※）の共通基盤に関するガイドライン」に準拠したS-GAPを策定しました。さらに令和6年3月には、国際的な基準に合わせた改正を行い、GAPの普及を推進しています。

S-GAPは、農業者が農場経営において、安全な農産物の生産や労働環境の改善、環境保全に取り組むことを促すものです。具体的には、農業に関する法律や規則、モラルを守りながら、食品安全、労働安全、環境保全、人権保護、農場経営管理それぞれの側面に配慮した農業を継続的に行うことを目指しています。GAPの研修を受けた県職員がS-GAP評価員として、農業者（農場）の取組状況を客観的に評価しています。

※Good Agricultural Practices



ガイドブック（4種類）



ロゴマーク



農業者への指導

大里地域のS-GAP実践農場評価数は230農場で、県全体981農場の23%にあたります。（令和8年3月末）

GAPへの取り組みは、農場経営の効率化と安全性の向上に繋がり、従業員の意識改革、資材の節減、作業の効率化を促すことで、収益性の向上にも貢献できます。

9 消費拡大の取組

埼玉県産農産物サポート店

埼玉県では、県産農産物を積極的に取り扱っている小売店、食品製造業者、飲食店、卸売業者を「埼玉県産農産物サポート店」として登録し、地産地消の拡大を図っています。

登録されたお店の情報は、「埼玉農産物ポータルサイト SAITAMA わっしょい！」に掲載され、店舗には「埼玉県産農産物サポート店」のプレートや看板が掲示されるなど、積極的にPRしています。

大里地域では、327店舗が登録されています。（令和8年3月末）



10 農地の効率的な利用

● 農地中間管理事業の取組

農地中間管理事業は、埼玉県農地中間管理機構（埼玉県農林公社）が地権者から農地を借り受けて、まとまりのある形で担い手へ貸し付ける制度です。

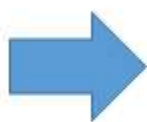
大里地域では、平成 26 年度の事業開始以降、約 1,488ha の農地で制度が活用されています。（令和 8 年 3 月末現在）

農地中間管理事業により、耕地を担い手ごとに集積・集約化することで、水稻作での水管理や畦畔管理の作業時間が短縮されるなど、作業効率の向上や経営コストの削減が図られ、各市町が策定した地域計画の実現が期待されます。

熊谷市下増田地域の例（ほ場を耕作者ごとに色分け）



集約前（平成 30 年）



集約後（令和元年）

11 農業・農村の整備

● 農業生産基盤の整備



大区画に整備されたほ場

大里地域の農地の整備率は、田 90%、畑 94% で、県内でも一番高い整備率となっています。

（令和 8 年 3 月末（暫定値））

近年は農家の高齢化や後継者不足による耕作放棄地の増加など、農業経営の継続が困難な状況になっています。このため、農地中間管理事業による担い手への農地集積・集約化と合わせ、農業生産性の向上や営農時間の削減、農作物の品質向上など、地域の営農条件を改善するためのほ場整備事業を推進しています。

農業水利施設の整備及び防災対策

取水堰や揚排水機場、農業用排水路等の農業水利施設では、施設の劣化状況に応じ計画的に施設の補修や更新整備を行っています。

また、農業用ため池では、地震や豪雨等によるため池の決壊に伴う災害を防ぐための防災対策を進めています。



整備された用水路



対策を講じたため池

農村の下水道整備

農村の下水道整備は農業集落排水事業により行われています。施設の供用開始は、最も古いもので昭和 61 年、最新のもので平成 25 年であり、供用開始後 30 年以上経過している施設も多く、現在は、今ある施設の更新整備や施設の統合等を進めています。



農業集落排水処理施設

基幹農業水利施設の管理

国で整備した広域に跨る農業用水取水施設（六堰頭首工、玉淀ダム農業用取水口）を県が委託を受け、適正な取水管理を行っています。



六堰頭首工



玉淀ダム

農業農村の多面的機能の向上・発揮

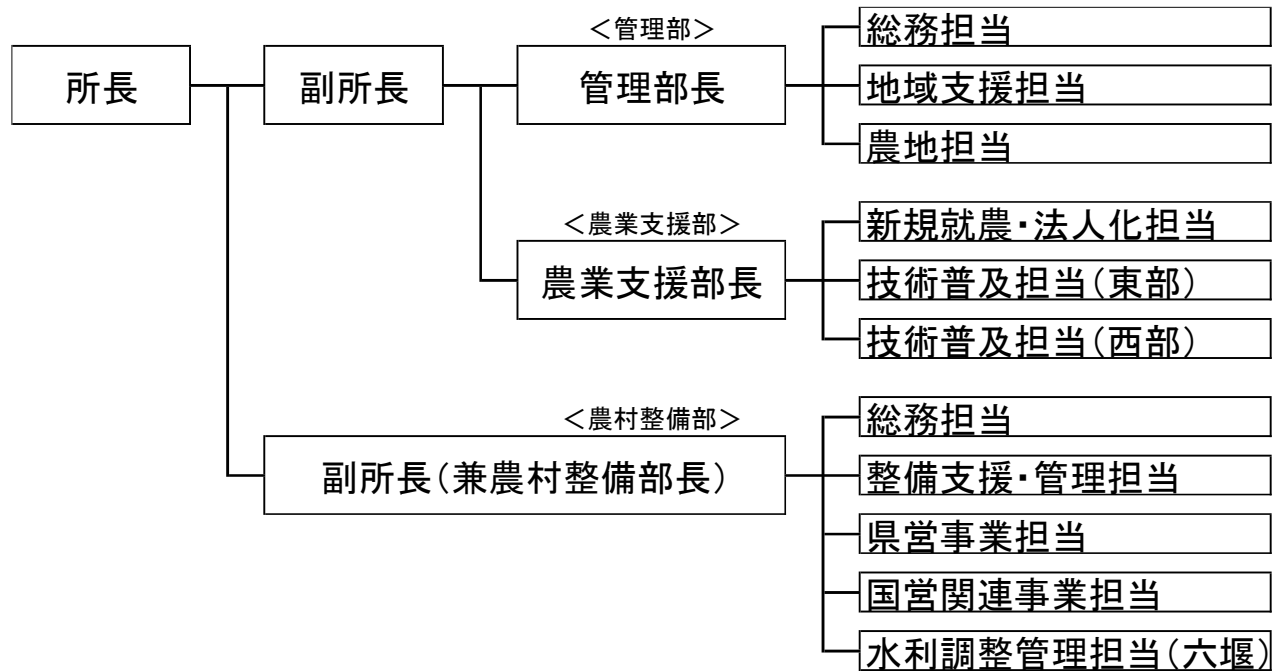


活動状況（水路の**除草**）

地域の共同活動による農道、農業用排水路等の維持管理や景観形成等の取組を通じ、農業・農村が有する多面的機能の向上・発揮が図られています。

大里地域で多面的機能支払交付金を受けて活動している組織は 93 組織で、管内全体の農地面積に対する活動面積の割合は 49.2%となっています。（令和 8 年 3 月末現在）

大里農林振興センターの組織及び案内図



【管理部、農業支援部庁舎】

〒360-0831

熊谷市久保島1373-1

電 話 048-523-2812(管理部)

048-526-2210(農業支援部)

F A X 048-526-2494

熊谷駅から籠原駅行きバス

農業試験場前下車徒歩2分



【農村整備部庁舎】

〒366-0801

深谷市上野台244-2

電 話 048-571-2241

F A X 048-570-1026

JR高崎線深谷駅南口徒歩10分



【六堰頭首工管理所】

〒369-1243

深谷市永田3-5

電 話 048-579-2640

F A X 048-579-2647

秩父鉄道永田駅徒歩8分